

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471200291
法人名	株式会社 パル
事業所名	グループホーム ゆめが丘
所在地	三重県伊賀市ゆめが丘4-2-1
自己評価作成日	令和 2年 7月 1日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2471200291-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2年 7月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営者⇔職員、運営者⇔管理者、管理者⇔職員、及び職員間のコミュニケーションを重視し、ホームの雰囲気向上。
・利用者様にとって何が一番いいケアか？を、常に考え最大限実践。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆめが丘」は伊賀市の中西部にある住宅団地ゆめが丘の一角に2003年に設立され、現在の運営会社に引き継がれて5年目を迎えた事業所である。現在1ユニット9人の利用者が「安心して穏やか、楽しく過ごせる」の事業所運営信条のもと生活を共にしており、支援する職員は管理者を始めベテランが多く利用者との関係は良好で家族アンケートなどにもそれが窺える。事業所の付近は住宅団地の他、県市の公共施設や大規模なショッピング施設が競うように建てられており、安心安全の環境と相まってこれからますます発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	どの業務も理念を基本に職員が行動するよう努めている。毎出勤時に読んだり、職員の評価に取り入れている。	会社の基本理念を中心に運営や職員の信条、またそれぞれのあるべき姿などを細かく具体的に示しており、職員は出勤時にこれを1項目ずつ黙読して日々自覚を新たに行っている。また玄関にも掲出し、訪れる人達にも理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方、民生委員の方、地域交番の方などと交流し、地域の清掃活動にも参加している。	前回のステップアップ項目で積極的な地域への発信を目的としていたが、約8割の達成状況と自己評価している。今後も更に取り組みを広げ道路に面して花を植えたり、地域のみならず工業団地の夏祭りにも参加したいと意欲的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献ができていると言い難い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご意見いただいたことを日頃の業務に活かしサービス向上に努めている。	これも前回のステップアップ項目であり参加者を増やすというものであったが、元民生委員と交番の警察官の2人を新しく加え確実に結果を出している。今後は会議の議事録を調製し、利用者家族や参加できない職員などにも報告しサービス向上に生かしていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ出向いたり、電話したり、推進会議で話し合ったり、協力関係を築くよう努めている。	市役所本庁舎が事業所に程近いところに新しく建てられ便利になり、訪問や電話等で緊密な関係を築いている。事業者からは法律の解釈や運用、具体的な助成金等の申請、市役所からは生活保護受給者の受け入れなど協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束適正化のための指針」「身体拘束フロチャート マニュアル」などを作成し職員全員で共有している。	事業所独自の「指針」や「マニュアル」を作成している。職員には普段から問題意識を持つように指導しており、各種情報をラインで共有したりその延長で職員会議を行うなど積極的な取り組みがなされている。ただ、これらの記録がないのが実情である。	拘束防止の積極的な取り組みが見られるが、議事録などが残されておらず、今後の更なる取り組みとして職員間はもちろん利用者家族等とも問題を共有し、その為に必要な記録を残し効果的に運用されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止対応規定」などを作成し、職員全体で共有している。市が発行した虐待に関する書面(虐待事例など)も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまりできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(見学時)に十分な時間をとって、利用者様(家族様)に理解・納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様のご意見は、日常の介護日誌や連絡ノート、月次会議により職員間で共有し反映できるよう努めている。	これまで利用者家族には随時の面会時や月1回の「お便り」を話題にして意見を聞取っている。しかし最近は新型コロナの影響から「リモート面会」を進めており、現在5組の家族の登録がなされ以前より積極的な面会が行われている。今後は更に全員の登録を目指し努力するところである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや社内会議、定期的な個別面談により、意見や提案の反映に努めている。	月1回ケア会議を行っているが、これに運営の代表者である社長も出席し事務連絡や問題検討など直接的な意見の聴取が行われている。今後は日々の運営での問題精査や意見発表の出来る場を創るよう検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトが職員に負担がかからないよう、労働時間の適正化や介護に関わる仕事の社会的重要性も伝え、やりがいを感じもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の実務を共に行いケアの向上に努め、連絡ノート活用や月次会議の場でより良いケアができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業施設との交流を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室など落ち着いた場所での会話の中でご本人の想いや心配事を伺いながら、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の一方的な説明だけにならないよう、家族様の利用者様への想いや要望を伺う機会を多く持つよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様のアセスメントと初期段階での観察により、必要な支援の提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の作業を助けていただいたり、家族のように何気なく話をして過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況の中、タブレットでビデオ通話をしていただいたり、家族様に手紙を書いて返信していただくなど、ご本人の生きがいや活気に繋がるよう協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現況の中、ドライブで馴染みの場所を通して、職員や利用者様同士で回想していただいている。	利用者の出身地が遠方の場合が多く、普段の面会等はそんなに盛んではない。しかしその分旧住所地をドライブで訪れたり、古いビデオでの回想法を行ったりと職員による積極的な努力が重ねられ利用者の心の安寧につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士での会話の見守りや、職員も含めての会話で関わりあう機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された利用者様について、安定されるまで時々様子を伺い、ご家族の不安を軽減できるよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室でじっくり話す機会をつくったり、何気ない会話の中で真意をくみ取るよう努めている。	利用者全員の平均介護度が約1.2程度と低く、言葉での意思疎通が容易である。そんな中、入居前の職業に触れた話題を提供したり、各人様々な価値観などに添ったケアを行うなど利用者本位の介護となる様職員の細やかな努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や回想時の話などから得た情報を職員で共有している。家族様に詳しく伺い、より多く情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その場面の表情、職員と共に行う作業や作品作りの様子の観察、対話などから、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族様の想いや要望を理解した上で、担当職員中心に意見や課題をまとめ、現状に合った介護計画を作成している。	入居当初にそれまでのアセスメント情報に基づき介護計画を作成しているが、1カ月ほどは現状を見ながら柔軟に対応している。本計画は6ヶ月を単位とし職員がモニタリングを行い、関係者全員でのケア会議の実施などそれぞれの立場での意見を尊重した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌と連絡帳で情報を共有している。ケアの変更が必要だと考えられる時は、様子を観ながら進めていき、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が不安感など抱かないよう、家族様と相談させていただきながら、事業所として出来る範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではあまり活用できていないが、利用者様が暮らしを楽しめるよう地域に出て行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に理解をしていただいた上で、事業所に隣接しているかかりつけ医に変更していただき、定期受診や体調の変化時の指示を受けている。	メンタル関係でかかりつけ医を持つ2名を含め、利用者全員が事業所に隣接している協力医に診てもらっている。定期受診は月2回、いずれも職員が付き添って適切に支援している。また緊急時においても同様で医療的には充足している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を置いていない為、かかりつけ医に相談し、指示を受けている。隣接している薬局で教えていただくことで薬の知識を増やしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	穏やかに過ごされスムーズに治療が進むよう、情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合と、看取りを行ってないことの説明をしている。都度、体調の変化を伝えながら、重度化による転居についてはタイミングを考慮して話し合いをし、担当者を交えて施設の紹介をするなど、共に考え支援をしている。	事業所としては看取りを行っておらず介護度が3になった時点で次の施設の検討を行う事としている。このことは入居時に家族も交えて説明しており双方納得の結果である。なお事業所としては次に入所できる施設を探すなど退所後のフォローに取り組んでおり、利用者及び家族との信頼関係を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応の研修を受ける。緊急時の対応のマニュアル化をし、その日の役割分担を決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の公共施設への避難となるが、避難方法などの詳細は明確でない。	地勢的に洪水や津波など水災害関係の可能性は低いが、地震や火災などに備えて年2回消防署の指導を受けながら避難・通報・初期消火などの総合的な訓練を実施している。自助でできる範囲での努力をしているが、共助である自治会等との協力関係が未だ築けていない現状である。	火災やその他の災害での避難等には事業所だけでは限界があり、自治会など身近な他者の協力が頼らざるを得ない。そのため普段からのお互いの認識と意識付けが必要であり、この点の積極的な働きかけに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設運営信条に基き、一人ひとりの尊厳とその人らしさを尊重して接することを心がけているが、適切でないとされたことは、ヒヤリハットや全体会議で挙げ、注意しあっている。	利用者の個人情報の保護には特に留意しており、毎月の「お便り」においても一人ずつの個別性を確保したものとなっている。また普段の生活においては会話の内容に気を配ったり、トイレや洗面所付近ではカーテンを利用するなど細かな部分での職員の気遣いが見て取れる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の気持ちを表しやすい環境をつくり、その方に合った問い方をしよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望が聞かれたら、希望にそって実施できるよう支援している。こちらから提案して希望を伺うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見ながら整容していただいたり、利用者様と相談しながら、季節に合った洋服を選んでいただき準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は中止しているが、豚汁やシチュー作りなど、皆で作って食事する機会を設けている。	毎食ともご飯と汁物は事業所で作り、それ以外は業者から購入したものを温めて素早く提供している。新型コロナ以前は折を見て外食等にも出掛けていたが今では思うに任せない現状である。しかし総じて食事風景は和やかで利用者同士のお喋りの中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中的見守りに重点を置き、その都度、量や携帯を見直している。利用者様によっては、水分摂取強化が必要で、こまめに声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘導、見守りしている。定期的に義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活リズムと排泄の観察から、その方に必要な紙パンツやパットを、その都度見直しながら使用していた抱きながら、自立に向けた支援を実施している。	排泄において完全な自立は2人で、あとの利用者はすべて何らかの介助が必要である。しかし実際的には利用者ごとの管理表に基づき適切に誘導・支援されておりトイレでの排泄が可能となっている。夜間はポータブルトイレを利用することもあるが排泄に関する問題は出ていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表より無排便の把握をして、下剤の調整やマッサージを実施している。促す為の食材を食事やおやつに提供し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所として決まっている入浴日と時間の中で、安心してゆったりと入浴していただけるよう工夫している。入浴時の会話を大切に考えている。	入浴は週3回、すべて午前中に実施している。現在のところ入浴を嫌がったり拒んだりする利用者はおらず全員がゆったりと湯船に浸かって1日の内でも楽しみな時間となっている。職員はマッサージなどで身体を、会話によって心を寛がせ安心して入浴ができるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なく安眠していただけるよう環境を整え、会話しながら更衣していただき、臥床の見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で管理し、服薬支援を行っている。症状の変化に注意し、かかりつけ医や薬局でアドバイスを受けながら、身体に負担のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などから得た情報を共有し、出来るだけ楽しみや張り合いを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しい現状のため、花を見たり、馴染みの場所を通して会話を楽しむドライブの支援をしている。	新型コロナの流行の前には月に2回以上外出の機会を作り、花見や買い物などを楽しんでた。最近では人混みを避ける形で20分程度のドライブだけのことが多いが、それでも会話を楽しみ、馴染みの場所を通る度に見せる利用者の笑顔は職員の大きなモチベーションになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の規則として、金銭はもたない、としているが、家族様の要望もあり、持つことで不安が解消される方は、手元に持っていたでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様に理解を得て、ご本人から要望がある時は、電話やビデオ電話で会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一ヶ月ごとに交換する共同作品の壁画や季節の生花を飾り、ゆったりと過ごせる空間になるよう努めている。トイレ前の仕切りカーテンで、排泄への配慮をしている。	玄関からホール、そして廊下を経て各居室に至る動線はいずれも広々と造られており、壁のいたる所に飾られた利用者の作品は訪れた家族や面会者の目を和ませている。また室温や空調等は良く配慮されており利用者が安心して過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ふと座っていただけるように、ソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が、馴染みの品や写真を持参して下さることが多い。ご自身が色塗りされたお花の絵や、プレゼントされたカードを好みの場所に貼って、個性のある部屋作りをしている。	居室は6畳強の広さで白を基調にした清潔な空間に仕上がっている。そこに洋服掛けやチェスト、また仏壇・神棚まで持ち込んでいる利用者も居て、入居前と変わらない生活を楽しむ居室となっている。掃除は職員が行っているが利用者も出来る範囲で手伝い清潔に整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トラブルや混乱なく自分のリズムで過ごして頂けるよう支援し、その方に必要な声掛けをしている。安全面からの環境作りに取り組んでいる。センサーマット設置もその一つとして対応している。		